



SGN News



第48号 2026年9月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

滋賀グリーン活動ネットワーク (活動期間:2026年4月～2029年3月) 「新活動ビジョン」「中期目標」決定しました!

ミッションの位置付け

A. 事業者の環境行動の水準を高める	D. 未来に向けて活動を進める
B. 会員の想いと活動をつなげる	
C. 「未来よし」な暮らしを広める	

SGN新活動ビジョン				
ミッション	滋賀から「グリーン経済」をつくる			
ビジョン	産・官・民・学と協働し、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる「未来よし」な社会の実現			
バリュー	A. 事業者の環境行動の水準を高める	B. 会員の想いと活動をつなげる	C. MLGsの達成をめざし、「未来よし」な暮らしを広める	D. 未来に向けて活動を進める
事業名	実践促進事業	連携推進事業	暮らし方普及事業	企画広報事業
活動のテーマ	・事業者のグリーン購入の取組推進 ・環境・CSR・CSV活動の推進	・グリーン購入をはじめとする消費行動を通じた課題解決の研究推進 ・会員の連携した取組みの推進	・グリーン購入、エシカル消費の普及啓発 ・環境配慮商品に関する情報提供	・活動のアピール、情報提供 ・グリーン購入推進方法の検討や政策提言 ・活動全体の総括

※MLGs(Mother Lake Goals マザーレイクゴールズ):琵琶湖版のSDGsとして、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、琵琶湖を切り口として設定された滋賀県独自の13のゴール(<https://mlgs.shiga.jp/>)

SGN中期計画				
活動期間: 2026年4月～2029年3月(3年間)				
事業	1. グリーン購入シンポジウム 2. 自治体のグリーン購入担当者連絡会議 3. GPプラン滋賀事業【県委託】 ①実践講座×6回 ②基礎研修会×4回 ③登録者ヒアリング・実践支援 ④ナイスハート購入制度PR等 4. 滋賀県サーキュラーエコノミー実証事業における対法人のニーズサーチャ業務【県委託】	1. 会員の連携を推進するフォーラムや交流会等 2. 研究会活動 ・食のグリーン購入研究会 ・ゼロエミッション研究会 ・エコ交通研究会 ・生物多様性と環境・CSR研究会 ・MORIと暮らしの研究会 等 3. 講師派遣事業 4. 滋賀県立大学「環境マネジメント論」	1. グリーン購入+エシカル キャンペーン 2. エシカルマルシェの開催 3. いちよしグリーン商品リスト 4. 啓発資料の作成・貸出 5. 地域事業への出展・参加 6. 地域の関係団体との連携	1. 会員総会 2. ニュースレター 2回発行 3. ホームページ随時更新 4. メルマガ・FAXリリース 随時発行 5. SNSによる情報発信 6. 会員紹介者の表彰等 7. 政策提言 他
担当	実践促進部会	連携推進部会	暮らし方普及部会	企画広報部会
中期目標	会員および「GPプラン滋賀」の登録者数の増	「フォーラムや交流会等」参加者の満足度80%以上	「エシカル消費」を理解する人の割合40%以上	

第52回理事会で承認され、5月26日に開催された第18回定時会員総会にて公開された新活動ビジョンです。今年度4月からは、ミッションを「滋賀からグリーン経済をつくる」とし、「産・官・民・学と協働し、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる「未来よし」な社会の実現」をビジョンとしています。また、それぞれの事業に当てはめたバリューと活動テーマを設定しました。これを新しい活動ビジョンとし、2029年3月までの3ケ年の活動期間で事業を進めてまいります。

SGN新活動ビジョン決定について 会長 秋山 道雄

今年3月に決定した新活動ビジョンは、SGNのミッションを「滋賀から『グリーン経済』をつくる」としました。これまではビジョンとして掲げていた標語ですが、理事会・幹事会を中心とした関係者の検討を通して、「グリーン経済」に力点をおくため、ミッションとして再設定したものです。それに続く「ビジョン」、「バリュー」も、ミッションの変更に合わせて現在の課題にふさわしい形で再設定しています。2026年度から始まった新たな活動期間には、こうした経緯を踏まえて、会員各位が中期計画の事業にさまざまな工夫を加えて取り組んでいかれることを期待しています。



- 滋賀グリーン活動ネットワーク「新活動ビジョン」
「中期目標」決定しました 1
- グリーン購入シンポジウム2026 2
- 新役員紹介 3
- 新規会員からひとこと 3
- 一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワーク(SGN)では
新規会員を募集しております。 3
- 活動レポート 4
- 10月はグリーン購入+エシカルキャンペーン! 5
- 11月3日琵琶湖畔にてエシカルマルシェ開催!! 5
- SGN会員でつなぐリレートーク 谷口印刷株式会社 6
- 啓発資料をご利用いただきました! 6
- 潮流「薄型軽量の国産フィルム型 ペロブスカイト太陽電池を県有施設へ全国初実装!!」 7
- 今さら聞けない用語集 7
- 会員発エコ商品情報 8
- SGNロゴマーク・キャラクターの活用 8

実践促進事業

グリーン購入シンポジウム2026

実質賃金4年連続マイナス! 固定費も変動費も上昇中! 何から手をつける?

～クマ問題は他人ごと? 中小企業の自然への責任を考えてみよう～

【会場(コラボしが21 3階 大会議室)】開催報告

◆開催日: 2026年5月26日(火)

◆参加者: 約70名

プログラム

- 開会挨拶 秋山 道雄 (SGN会長)
- 基調講演 『ネイチャーポジティブ時代の地域企業と自然資本』
香坂 玲氏 (東京大学農学生命科学研究科/農学部 森林風致計画学研究室 教授)
- 事例報告 『現場から見てきた、地域と自然と企業の関わり方』 上田 忠義氏 (株式会社キャムズ 執行役員)
- パネルディスカッション 『中小企業の自然への責任を考えよう』
コーディネーター: 宮永 健太郎 (京都産業大学 経営学部 教授、SGN運営委員/生物多様性と環境・CSR研究会メンバー)
パネリスト: 香坂 玲氏、上田 忠義氏、千々岩 哲 (SGN生物多様性と環境・CSR研究会メンバー)

農水産物、木材、医薬品原料。様々な資源価格の上昇は企業経営と暮らしに大きな影響を与えています。自然環境の変化はこれら資源の安定供給、ひいては企業活動、地域経済にも波及します。生物多様性や自然資本は、地域企業の経営や持続可能性と深い関連があります。

本シンポジウムではビジネスと生物多様性のアセスメントをめぐる国際的動向や、TNFDの基本に触れ、中小企業にとっての実務的な意味を整理。地域金融機関によるネイチャーファイナンスの重要性、地域の企業活動と金融の接点を考察。自然と経済のつながりを見直し、地域企業の持続可能な発展を探ります。

基調講演『ネイチャーポジティブ時代の地域企業と自然資本』 香坂 玲氏

環境分野の課題を一体的に議論し、取り組むべきこととされつつある近年の動向にふれながら、ふるさとの「自然資本」を活かした経済活動でネイチャーポジティブの実現に取り組む地域の事例を多数ご紹介いただきました。事例の紹介では、自治体による仕組みづくりや、地銀のネットワーク力、企業や団体が連携することの重要性が語られると共に、様々な地方でネイチャーポジティブの実現を目指す機運が高まりつつあることをお話しされました。また活動を続けるための仕組みとしてゲームの要素を取り入れて参加や継続を促す「ゲーミフィケーション」などの事例にもふれられました。

機運が高まる一方で、企業活動による生物多様性への影響や依存を測定・評価する指標や手法は多様であり、比較可能性や活用方法に課題があります。それに対しIPBESがビジネスと生物多様性にフォーカスした報告書『BBA』を発表したことについて言及されました。IPBESの『ビジネスと生物多様性アセスメント (BBA)』が強調するのは個々の企業の努力だけでなく、政策・金融・制度など、企業の行動を支える環境を変えていくことです。

BBAを単なる読み物にするのではなく、意思決定に活かすこと。「政策×企業×金融」の連携を強化し、さまざまな主体（非国家主体）が連携し、活動の幅を広げていくことの重要性を強調されました。



香坂 玲氏

事例報告『現場から見てきた、地域と自然と企業の関わり方』 上田 忠義氏

日本各地で問題となっている獣害。冒頭では、獣害に関わりの深い製品の取り扱いを通じて浮かび上がってくる「地域が抱える現場課題」について言及されていました。

日々の業務の中で発見する「担い手不足」「特有の地理条件」「景観との調和」といった地域の課題。これらに寄り添って地域の人たちが使いやすい商品を開発・販売することで、商品は単なるモノではなく「地域で生きた仕組み」になり、自治体や地域団体、事業者との協働を根づかせる契機にもなります。また、現場から届くフィードバックをさらに商品開発に活かしつつ、猟銃会をはじめとする地域団体との連携も一段と深めているそうです。ローカルでのフットワークの良さは中小企業ならではのことで、連携を深めてビジネスを発展させることで地域の農業をより活性化させていくモデルになりたいとおっしゃっていました。



上田 忠義氏

パネルディスカッション『中小企業の自然への責任を考えよう』

コーディネーター: 宮永 健太郎

パネリスト: 香坂 玲氏、上田 忠義氏、千々岩 哲

基調講演と事例報告の内容を受けて4名でフロアトークをしていただきました。事例や実例をさらに掘り下げて考察を深めながら、中小企業が「生物多様性」に取り組む意味や方法について議論いただきました。



フロアトークの様子

会員交流会 Part 1

シンポジウムを受けて感じたことなどをテーマに8つのグループに分かれてお話しいただきました。ファシリテーターはそれぞれSGN役員の皆さまにお務めいただきました。シンポジウムの内容に身近なテーマが登場したこと、香坂先生や上田様にもご参加いただいたこともあり、業種を超えて大変な盛り上がりを見せました。

会員交流会 Part 2

会員交流会終了後、場所を移動して懇親会を開催いたしました。約30名の皆さまにご参加いただきました。



交流会Part1の様子

一般社団法人
滋賀グリーン活動ネットワーク

新役員紹介

5月26日に開催した
第18回定時会員総会にて
ご就任いただきました。

理事



滋賀県
会計管理局 次長

草川 佳代

滋賀県庁は全国に先駆けてグリーン購入に取り組み、県内の市町や民間事業者の皆様と共に環境配慮行動の実践を進めてきました。

気候変動により災害が激甚化・頻発化する中、2050年のCO₂ネットゼロ社会の実現に向けても、皆様と力を合わせて取組を進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

監事



公益財団法人 滋賀県産業支援プラザ
常務理事兼事務局長

石田 政則

プラザでは、SDGsの理念を念頭に、設立以来中小企業者の皆さんに寄り添った総合的かつ一体的な各種支援を行っています。特に「CO₂ネットゼロの推進」を重点施策として位置づけ、中小企業における省エネ・再エネのさらなる取組に対して様々な支援を行っています。これからも皆さんとともに、滋賀から持続可能な社会づくりに貢献できるように取り組んでまいります。

新規会員からひとこと

2025年8月1日から2026年7月31日までの入会者（団体名の50音順）

現会員数：401 団体
[企業332、行政22、団体47]
(2026年8月11日現在)



滋賀エシカルコミュニティ

代表 鴻里織氏

エシカルという価値観を広めるべく、イベントや大津市をフェアトレードタウンへ推進する活動を行っています。11/3にはSGNと協働してエシカルマルシェを開催します！



37company合同会社

代表 田畑 里佳氏

ふろしきを使ったヨガ教室の運営をはじめ心とカラダ、環境に優しいサービスや商品を福祉施設や地域のみなさまと連携して企画・販売しています。よろしくお願いいたします。

一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク(SGN)では 新規会員を募集しております。

SGNは主として滋賀県内の企業・行政・民間団体などの会員で構成される一般社団法人です。会員の連携により様々な環境負荷低減活動を推進しています。また会員の方向けに様々な事業やサービスをご用意しております。

SGNに参加して一緒に「グリーン経済」の実現を目指しましょう！



詳しくはこちらから

見学会やセミナーへ
無料または会員価格で
ご参加いただけます

他にも

会員同士の交流

啓発資材の貸し出し

など様々な特典がございます。





活動レポート

研究会活動報告 連携推進

◆生物多様性と環境・CSR研究会

・「琵琶湖の生きものと自然～変わったこと、変わらないこと～」

●参加者：40名 Zoom利用のオンラインセミナー 2026年2月10日(金)

2024年12月に国連総会において8月27日が「世界湖沼の日」と定められ、2025年が記念すべき最初の年となりました。そんな今だからこそ、あらためて琵琶湖の生きものや自然について学んでみようということでこのセミナーを開催しました。

まず滋賀県環境科学研究センター 総括研究員である石川可奈子氏が湖底の映像を交えながら、改善されている水質や課題が多い生物多様性保全について話されました。今後、県民が消費者としてだけでなく、企業と共に自ら主体となってネイチャーポジティブ実現に向けて行動し、研究機関が科学的知見を還元するという連携により、琵琶湖の未来は変えられる、とおっしゃっておられました。

次に、滋賀県立大学環境科学部客員教授でILEC理事の山本芳華氏は、「環境」と「観光」という視点からお話いただきました。そもそも地域が持続可能でなければツーリズムは成り立たないことや、「観光」という産業は環境を守るだけでなくより良くする可能性があるということです。滋賀県は琵琶湖の環境を守り、それ自体を観光の対象としていくことで伸びしろが大きいとも話されていました。

パネルディスカッションでは、講師2名に加え、(株)滋賀銀行 宇佐見 剛氏、(株)地域環境計画 千々岩 哲（生物研メンバー）をパネリストに迎え、同じく生物研メンバーで京都産業大学経営学部 教授の宮永 健太郎がコーディネーターとなり、活発な議論が交わされました。「滋賀県の外から見た滋賀」「様々な研究を通じて浮かび上がってくる琵琶湖」「中小企業と琵琶湖環境科学研究センターとの関わり方」といったテーマや、「昔の石けん運動の、現在の生活への影響は?」といった参加者からの質問からも話題が広がり、県民が“自分事”として考えるためにはどうしていくのが最善なのか、非常に議論が白熱しました。



生物研セミナー
パネルディスカッションの様子

第24回草津市子ども環境会議 交流の部 2026年2月1日(日)

暮らし方普及

●参加者：約200名 ●会場：草津市立グリーンセンター2階 くさつエコスタイルプラザ

今年度は「くらしにひとくふう サステナブルな未来をつくろうみんなで!」をテーマに「交流の部」「展示の部」「情報発信の部」の3つのプログラムで開催されており、この「交流の部」への参加は昨年度に続いて2度目で、「グリーン購入+エシカルキャンペーン」の取り組みを紹介しました。この草津市子ども環境会議は草津市内の小・中学校、こどもクラブを中心に企業や団体等が多く出展（こども70グループ30団体、大人36グループ35団体）しており、エコ活動取材ラリーでは全てのブースを回ることができないくらい見応えのある発表がたくさんありました。子どもたちもたくさんSGNのブースを訪れて、「グリーン購入+エシカルキャンペーン」の内容について聞いてくれました。またこどもと大人の環境井戸端会議では、小学生の時に、草津市子ども環境会議に参加してから環境に興味を持ち、現在、国立環境研究所で社会システム領域 研究員として活躍されている畑 奨さんのミニ講演や、グループに分かれて「地球にやさしい〇なこと」について意見交換を行いました。

展示の部：2月4日(水)～2月17日(火) (日曜日、祝日を除く)

くさつエコスタイルプラザ

3月7日(土)・8日(日)

イオンモール草津 2階イオンホール

情報発信の部：You Tube

こちらにも参加しました!

グリーン購入+エシカル de 未来よし 動画はコチラから ⇒



第24回草津市子ども環境会議
交流の部 SGNブース



10月はグリーン購入+エシカルキャンペーン!

滋賀グリーン活動ネットワーク（SGN）では、人や社会・地域・環境に配慮した「グリーン購入」や「エシカル消費」などの持続可能な消費行動を定着させることを目的に「グリーン購入・+（プラス）・エシカル キャンペーン」を実施します。みんなで滋賀からグリーン購入+エシカルを広めましょう!

- 実施期間／2026年10月
- 実施主体／一般社団法人
滋賀グリーン活動ネットワーク
- 後援／滋賀県

?グリーン購入?

製品やサービスを購入する際に、必要性を考慮して、環境に与える影響ができるだけ少ないものを、環境保全に熱心な企業から、優先して購入することです。

?エシカル?

「倫理的な」という意味を持つ言葉です。環境だけでなく、人権、社会、地域に配慮した行動をエシカルと呼びます。

SGN会員の皆様へ キャンペーンご協力の御願い

- 自らの取組、購入商品の見直し
- キャンペーンポスターの掲示
- ホームページや機関誌等でのPR
- 地域イベント等での啓発活動
- 研修会の開催、外部研修会への参加 など

詳しくはこちらから ⇒

GPプランBコースの方は
実施後の報告をお忘れなく!



ポスターや歌で
グリーン購入
+エシカルを
アピール!



11月3日 琵琶湖畔にてエシカルマルシェ開催!!



～エシカルの入口の扉を開く～

入場無料

11月3日「ビワイチの日」に合わせて、琵琶湖のほとりから喜びあふれる持続可能な地域の未来を願う人や組織が集まって開催します。自然の中で人と人がつながり、対話し、学び、楽しみながら、人・社会・地球にやさしい選択を身近に感じられる場を、出店者の皆様と共に創出していきたいと考えています。

- 開催日時／令和8年(2026年)11月3日(火祝) 10時～16時
- 開催場所／なぎさ公園(大津市浜町 琵琶湖ホテル裏 修景緑地)
- 主催／琵琶湖汽船株式会社
- 企画・運営／一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク
滋賀エシカルコミュニティ
- 後援／滋賀県、大津市・大津市教育委員会(予定)



詳しくはこちら

持って来てください!!!

- 古着の循環
3着もって来たら3着持って帰れます
持って来なくても持ち帰りOK!
- フードドライブ開催!
家で眠っている食品を必要な人に。
- 歯ブラシ回収・天ぷら油回収も!
持って来てね!

フードエリア

ヴィーガン・オーガニック・地産地消の飲食店等

循環エリア

古着・アップサイクル商品販売等

フェアトレードエリア

フェアトレード商品の展示・販売等

エシカルコンシェルジュエリア

エシカル啓発ブース等

MLGsエリア

MLGsの啓発等



Relay
Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

株式会社口ハス長浜からのご紹介

谷口印刷株式会社
代表取締役

立花 丈太郎さん



谷口印刷株式会社は1920年に旧伊香郡木之本町で谷口日進堂として活版印刷事業で創業いたしました。その後、1971年に谷口印刷株式会社として長浜市高月町に移転し現在に至っています。活版印刷から始まった印刷事業はその後、時代とともにオフセット印刷に移行し、現在ではオフセット印刷に加え、デジタル印刷、大判印刷の印刷事業の他に、看板やノベルティ、WEB制作などのデジタル分野にも事業を拡大しています。

滋賀県で事業をおこなう企業として「びわ湖」がいつまでもきれいにありますようにと、環境にやさしい商品づくりを心がけています。そして、びわ湖を含めた地球環境保護に取り組むことが、企業の社会貢献の一つだと考えています。そんな

思いから、2012年に滋賀県内に本社をおく印刷会社としては初の『グリーンプリンティング認定工場』を取得いたしました。グリーンプリンティング認定工場とは、日本印刷産業連合会が印刷資材や印刷関連工程、事業者の取り組みなどの環境対策を基準化し、一定の基準を達成した工場をグリーンプリンティング認定工場として認定する制度です。また、印刷製品にグリーンプリンティング（GP）マークを表示することで、環境に配慮した印刷製品が広く普及することを目指す制度です。環境に配慮した印刷を行うとともに、お客様の使用される印刷物にもGPマークを付与することで、お客様の環境配慮の取り組みにも貢献しています。



ながはまふるさと百景 絵はがき



イラスト展の様子

また、どこか懐かしさを感じる長浜市の自然豊かで、歴史的情緒溢れる街の姿を、後世に残し、伝えたいとの思いから、2015年よりながはまマーチング委員会を立ち上げ、「ながはまふるさと百景イラスト」の制作を始めました。ながはまマーチング委員会では絵はがきやクリアファイルなどを商品化し、イラストを通じてより多くの方に長浜の良さをPRする活動を行っています。

この地で事業を続けられることへの感謝とともに、印刷物を中心としたコミュニケーションサービスにおいて人と社会を心豊かにすることが私ども谷口印刷株式会社の使命です。環境も含めた地域貢献、社会貢献にも取り組んでまいります。

次回はアケボノ特機株式会社さんをお願いします。

谷口印刷株式会社

滋賀県長浜市高月町高月618-1

TEL : 0749-85-2385

URL : <https://www.taniguchi-printing.com>

啓発資材をご利用いただきました！

グリーン経済がわかる啓発資材を会員様向けに貸出ししております。3月に利用されたティーエムエルデ株式会社さまの感想をご紹介します。

当社が開催した環境イベントにおいて、お子様連れのお客様にも楽しみながら環境について学んでいただけるゲームを探していたところ、滋賀グリーン活動ネットワーク様の啓発資材を知り、お借りすることになりました。

「手回し発電実験機」はお子様にも大変人気があり、自らハンドルを回して発電し、どの照明が点灯するかを楽しみながら体験していただくことができました。

また、「エコマークをさがせ！」ゲームについても、参加者の年齢に合わせてルールを設定することで、楽しく実施することができました。

今後もイベントのテーマや対象者に応じて、啓発ツールを活用させていただければ幸いです。



お話しをお聞きした会社 ティーエムエルデ株式会社

URL : <https://www.tm-erde.co.jp/> TEL : 0749-72-8110 FAX : 0749-72-8119

啓発資材貸し出しの

お申し込みは事務局まで(会員限定)

潮流

薄型軽量の国産フィルム型 ペロブスカイト太陽電池を 県有施設へ全国初実装!!

滋賀県 総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課

滋賀県では、令和7年度末に滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画（令和4年3月策定、令和8年3月改訂）を改定し、温室効果ガス排出削減目標や再生可能エネルギー導入目標の達成のため、次世代型太陽電池であるペロブスカイト太陽電池の率先導入を重点取組の一つに位置付けました。

その取組の第1弾として、薄型軽量で柔軟性のあるフィルム型ペロブスカイト太陽電池を八幡工業高等学校の体育館へ導入しました（令和8年7月完成）。実証事業ではなく、商品として実用化されたペロブスカイト太陽電池の導入では、全国で初めての取組です。今回導入した体育館では、従来型のガラス製太陽光パネルが耐荷重の問題で導入できなかった施設であり、ペロブスカイト太陽電池の特徴である「軽量性」を最大限生かして導入したものです。

今後、守山北高等学校や琵琶湖博物館、計量検定所への導入の取組を進めていくと共に、県内の電気工事業者や導入を希望する企業、市町、団体等を対象とした施工見学会を開催することにより、新技術の県内への普及啓発活動を実施します。

滋賀県では、再生可能エネルギーの導入拡大に際し、「地域と調和した」という枕詞をつけ、自然環境と共生しながらCO₂の排出削減を目指していくこととしています。その中で、再生可能エネルギーの導入に適した場所の不足が課題となっており、これまで設置できなかった場所へ導入が可能なペロブスカイト太陽電池は、滋賀県が推進する地域と調和した再生可能エネルギーの「カギ」となる技術として大きく期待を寄せており、今後も導入拡大や普及啓発に取り組んでいきたいと考えています。



軽くて柔軟性があるペロブスカイト太陽電池。
様々な場所への導入が期待されている。



八幡工業高校体育館の屋根に導入されました

今後の展開

7月～12月	導入工事 (守山北高校、琵琶湖博物館、 計量検定所)
(予定) 10月15日 11月25日	現地見学会 県内電気工事業者向け 導入希望者向け
10月中旬 ～11月末頃	琵琶湖博物館での展示

今さら聞けない 用語集

【水平リサイクル】 使用済み製品や製造上で発生した端材等を回収して、リサイクルし、再び同様の製品や原材料として利用すること。ペットボトルの「ボトルtoボトル」が有名。近年は様々な素材で取り組みが広がっている。温室効果ガスの排出量や資源利用量の削減が見込める。

【カスケード利用（垂直リサイクル）】 品質の劣化等により水平リサイクルができなくなった素材を、その品質レベルに応じた利用方法で段階的にリサイクルしていくこと、またその優先順位のこと。身近な例では牛乳パック→再生紙→段ボールという様に、回収されるごとに短くなる紙繊維の品質に応じた製品へ再利用されていく。



会員発エコ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

～緑の募金付き～ エコライフカレンダー

アインズ株式会社

アインズの「エコライフカレンダー」は、予定を整えるだけでなく、日々の暮らしに“環境の視点”をそっと添えてくれる卓上カレンダーです。毎月のテーマから、無理なく続けられる身近なエコアクションに気づけるのも特長。使う人の選択が森林保全などの支援につながり、企業のCSRにも活用いただけます。新しい一年を、やさしい行動の積み重ねから始めてみませんか。



〈お問合せ〉アインズ株式会社



〒520-2573 滋賀県蒲生郡竜王町鏡 2291-3
TEL: 0748-58-8131 FAX: 0748-58-8188
E-mail: madoguchi@eins.shiga.jp
担当者: 営業管理 水上 みのり

～カラダに優しく、ココロに嬉しい～ 「キャロブ」を使った商品たち

37company合同会社

次世代チョコレートともいわれる「キャロブ」から生まれたプロテインやグラノーラなどの商品は滋賀県の障害福祉サービス事業所れもん会社と連携しひとつひとつ丁寧に作っています。

人工甘味料などの添加物は使わず自分や大切な人が毎日ご愛用いただけるように原料を厳選しています。

カラダに優しく、ココロに嬉しい商品をお試しいただけると幸いです。



〈お問合せ〉37company合同会社 SISTERS' FAVORITES



〒520-0055 滋賀県大津市春日町 5-3
E-mail: sisters-favorites@37company.co.jp
URL: https://sisters37.thebase.in
担当者: 田畑 里佳

エコペン
おススメ!

SGNロゴマーク・キャラクターの活用



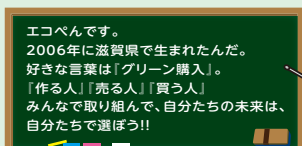
SGNロゴマークやエコペン等のキャラクターをご活用ください。名刺・ホームページ・会社案内・サステナビリティレポート等、様々なシーンでご活用いただけます。



Shiga
Green-activity
Network
滋賀グリーン活動ネットワーク



©SGNキャラクター エコペンファミリー



エコペンです。
2006年に滋賀県で生まれたんだ。
好きな言葉は「グリーン購入」。
「作る人」「売る人」「買う人」
みんなで取り組んで、自分たちの未来は、
自分たちで選ぼう!!



SGNキャラクター エコペン



SGNホームページ
「会員ページ」

※ご利用には申請が必要です。詳しくはSGN
ホームページ「会員ページ」をご覧ください。

編集後記

まずは紙面の作成にご協力いただいた会員の皆様へ厚く御礼申し上げます。

2026年度から最高気温40℃以上の日を「酷暑日」と称することとなりました。この後記を執筆している8月現在、酷暑日を記録した国内地点は30を超えたそうです。自分の子ども時代は最高気温が30℃に達する日も稀だった為、自転車で様々な場所に出向いて、夏休みを満喫したことを思い出します。その頃の私は「酷暑日」という単語が生まれる未来など想像もしていませんでした。今思い返すとなんと贅沢な夏休みだったのでしょうか。

連日の猛暑の中、夏休みにもかかわらず室内で過ごさざるを得ない子ども達を見ていると大人として申し訳なさも感じます。世界中の大人たちは子どもたちの未来の為にどれだけ団結できるのか。私も含め、大人たちの正念場です。

(事務局: Y)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586

Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: https://www.shigagpn.gr.jp/

